

證空上人書狀

1 山城清涼寺文書

底本 『鎌倉遺文』古文書篇第三卷 番号 1453

対校本 大日本史料

2 誓願寺所蔵文書

底本 写 真

対校本 大日本史料

3 興善寺所蔵文書

底本 『鎌倉遺文』古文書篇第三卷 番号 1454

主として堀池春峰氏解説に依るも多少の異りがある。

対校本 ○堀池春峰氏解説 『仏教史学』第十卷三号所収

(昭和三十七年十月)

○阿川文正氏解説 『浄土学』第二十九号所収

(昭和三十九年十一月)

阿川氏は堀池氏解説による

○齋木一馬氏解説

『藤原弘道先生
古稀記念 史学仏教学論集』所収
(昭和四十八年十一月)

○『大日本史料』

一部分の解説記載あり

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a document or letter. The text is densely packed and written vertically on aged paper. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive script. The document appears to be a formal record or a personal communication from the Ōshōji temple.

興善寺文書 1

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), continuing the document or letter. The text is densely packed and written vertically on aged paper. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive script. The document appears to be a formal record or a personal communication from the Ōshōji temple.

興善寺文書 2

興善寺文書 3

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a document or letter. The text is densely packed and written vertically. The characters are dark and the paper shows signs of age and wear.

興善寺文書 3

興善寺文書 4

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a document or letter. The text is densely packed and written vertically. The characters are dark and the paper shows signs of age and wear.

興善寺文書 4

1 山城清涼寺文書

二字とんかへしまいらせ候ぬ、御ふミ又候めり、およそこのてうこ(参)
そ、とかく申にをよひ候はず、めてたく候へ、わうせうせさせ給た(往 生)
らん(入 道)にハ、すくれておほへ候、しこしりてわうさうする人くハ、
にうたう殿にかきらす、おほく候、かようにしほくをくところかす事(耳目)
ハ、まつ(宋 代)たいにハよも候はし、むかしもたうさくせんしはかりこ(道 紳 禪 師)
そ、おハしまし候へ、返々申はかりなく候、たしなに事に(つか)□けて
も、仏道(魔事)にハましと申事の、ゆしきたいしにて候なり、よくく
御ようしむ候へきなり、かよう(不思議)にふしきをしめすにつけても、たよ
りをうかう事も候ぬへきなり、めてたく候にしたかひて、いたは
しくおほえさせ給て、かやうに申候なり、よくく御つゝしみ候
て、ほとけにもいのりまいらせさせ給へく候、いつか御のほり候へ

堅二八・六種
幅八七・一種

① ん 大日本史料「も」

② ハ 大日本史料「候」

き、かまへてくゝのほらせおハしませかし、京の人くおほやう
 ハ、みなしんして念仏をみますこしいさみあひて候、これにつけ
 ても、いよくすゝませ給へく候、あしさまにおほしめすへ「からみ」
 候、なをくめてたく候、あなかしくく、

四月三日 證^① 空

熊谷入道殿へ

(切封墨引)

(別紙)(直実筆)
 「うれしさをむかしは

そてにつゝミけり、

□へうの御返事也、

① この文は元享版拾遺語燈録、四

十八卷伝二十七には源空の書状として伝える。證空の誤認とみられる。昭和重修法然上人全集一一四五頁を参照せよ

「うれしさをむかしは

袖につゝミけり

こよひハ身にも

余りぬるかな」

の前半部

2 誓願寺所藏文書

おもひかけ候はぬ事にて候へとも、松林院の大納言の得業と申候人を、としころさりかたくしり申て候か、昨日京上候けるか、いもあらひにて下人のあひたらうせきの事いてき候て、下人ならひに〔専〕雑船当とりこめられて候とてなけき申され候条、不便候間、とり申候也、かならずいそぎ御さた候へく候、謹言、

二月五日

證空

広川刑部殿

竪二八・〇
幅五二・七
寸

(裏書)

此一軸元出於西山三鈷寺而
紀之摠持南楚老師珍敬也
久矣及師没而伝之余余附
之本寺以貽不朽云

時

延宝丁巳仲秋之望

見住誓願龍空叟瑞山

① 此の一軸は元、西山三鈷寺より出づ。紀(州)総持寺の南楚老師珍敬するや久し。師の没するに及びて之を余に伝ふ。余之を本寺に附して以て不朽に貽すと云ふ。

3 大和興善寺阿弥陀如来像胎内文書

證空書狀（一）

又たれもしのひまいらせたりをし^①□^{〔くか〕}こそ候へ、とくくしてのほ
 らせ給ひ候へ、又観念法門往生伝おかせまいらて^②もせて^③ハ、いま
 にかき候ぬに候、いかに不当のものかなと、おもはせたまうら
 ん、
^{〔便〕}^{〔喜〕}
 たよりをよろこひて申候なり、なにとし候らん、おほつかなくこそ
 思まいらせ候へ、さておほせ候ひたりし御らいの事の、かなひ候さ
 りしこそ、まめやかにくちおしく候へ、又聖人御房の御やま^{〔病〕}ひこ
 そ、すこしおこらせ給ひて候へ、いたく思まいらし給事ハ、おはし
 まし給^④ハねとん、おほつかなく思まいらせ給ひ候すらんとて、かく

豎三一・四種
 幅五一・三種
 最初の四行は追書なり。

- ① をし□^{〔くか〕} 齋木解説「げに」
 ② てもせ 齋木解説
 「させ」
 「てせ」
 ③ ハ 齋木解説
 「ハ」なし
 ④ に 齋木解説
 「だ」
 ⑤ さて 齋木解説
 「さてハ」
 ⑥ ら 齋木解説
 「え」
 ⑦ 思まいらし 齋木解説
 「だいじの」
 ⑧ 給 堀池・阿川解説
 「候」
 ⑨ ん 齋木解説
 「も」

證空書狀（前欠）

……………（前欠）註……………

しをハ積せさせ給て候なり、このよしを（由）そんして、念仏ハ上品の業にてあるそと、おもはせ給へし、くハしくハ見参にあらすハ、つくしかたく候、たゞいま、やかてかきて候へハ、ひかこと（辭事）ん候はん、こらんしてハ、かならずやかて給へく候、かつく申候なり、さてやむ事もそくとて、又いつかのほらせたまひ候はんする、よに見参したく（心地）こちなりて候へ、淨利房にハ、さしたる事も候はねハ、御ふミハまいらせ候はず、いつかのほらせ給はんすらん、よに（恋）こひしくこそおもひまいらせ候へと、つたへさせ給へく候、なをくかならず、やかてたまふへく候、これハひさうのことにて候なり、のほらせ給て、よくくきかせ給へし、なにとん又く申候へし、御房の御そら（所勞）うそも、たうし（當時）ハ、へちの事ハ、いとおはしまし

堅三一・二種
幅五六・二種

註 前欠の部は善導の積文についての見解を述べたものとおもわれる。

- ① し「よし」 大日本史料
- ② とん「も」 大日本史料・齋木解説
- ③ は「ら」 大日本史料
- ④ て「せ」 大日本史料・齋木解説
やかせ「焼かせ」か
- ⑤ く「候」 大日本史料・齋木解説
- ⑥ こ「こそ」 大日本史料・齋木解説
こち（心地） 大日本史料・齋木解説
- ⑦ ハ「ハ」 大日本史料・齋木解説
ハ「ハ」なし
- ⑧ 候「給」 齋木解説
- ⑨ て「せ」 大日本史料・齋木解説
て（焼かせ）
- ⑩ ん「も」 大日本史料・齋木解説
- ⑪ そ「そ」 大日本史料・齋木解説
なし

候はねとん、このかんに、いかゝとおほへ候なり、あなかしく、

十二月四日 證空

證空書状追書

啓て申候、

御事つけの人々、これよりもおもひそしらし、申候ぬに、返々もうれ
(下)しく候、くたらせ給ひてのちハ、たのもしき人もなきやうにて、わ
(後)ひしく候なりとぞ、いのちハしり候ねとん、「い」申せと候、まは
(命)
(知)あぎこそ、まち候めとぞ申とに候、

① ん〃大日本史料・齋木解読

「も」

② く〃齋木解読

「こ」

堅三一・九種

幅五一・八種

③ 啓〃齋木解読

「を」

④ そし〃齋木解読

「なが」

⑤ し〃齋木解読

「え」

⑥ ん〃齋木解読

「も」

⑦ に〃齋木解読

「ぞ」